

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

(令和8年6月5日発行)

1. 定点把握対象疾患の発生動向 ※栗原支所管内を含む大崎保健所管内

上段は圏域全体で一週間に診断した患者数、下段は一つの定点(医療機関)あたり一週間に診断した患者数。*は急性呼吸器感染症(ARI)に含まれる感染症。

疾病	疫学週				
	19週 5月4日 ~ 5月10日	20週 5月11日 ~ 5月17日	21週 5月18日 ~ 5月24日	22週 5月25日 ~ 5月31日	
急性呼吸器感染症(ARI) インフルエンザ* 新型コロナウイルス感染症*	287 57.40	401 80.20	512 102.40	490 98.00	
			3 0.60	2 0.40	
	4 0.80	3 0.60	15 3.00	3 0.60	
小児科定点	RSウイルス感染症*			1 0.33	
	咽頭結膜熱*	1 0.33	1 0.33	3 1.00	2 0.67
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	2 0.67	8 2.67	8 2.67	8 2.67
	感染性胃腸炎	4 1.33	3 1.00	8 2.67	6 2.00
	水痘	1 0.33			
	手足口病	2 0.67	1 0.33	3 1.00	4 1.33
	伝染性紅斑				
	突発性発しん	3 1.00	1 0.33		1 0.33
	ヘルパンギーナ*	1 0.33			1 0.33
	流行性耳下腺炎				
眼科定点	急性出血性結膜炎				
	流行性角結膜炎		3 3.00	4 4.00	
基幹定点	感染性胃腸炎(ロタウイルス)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				
	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)				
	マイコプラズマ肺炎				
	無菌性髄膜炎				
拡張疾患	マイコプラズマ肺炎(小児科)		1	1	
	川崎病	1		1	
	不明発疹症			1	

大崎保健所管内定点数:内科定点2施設 小児科定点3施設 眼科定点1施設 基幹定点1施設

2. 集団発生状況 ※栗原支所の過去2週間における対応状況

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	—	—	—
備考			

3. 栗原支所より

◎:複数対応中、○:対応施設あり、—:対応無し

【全数報告疾病】※栗原支所管内

・なし

【定点把握対象疾患の発生動向】

※栗原支所管内を含む大崎保健所管内

- 県全体で水痘の定点当たりの患者報告数が増加しました。水痘ウイルスによる感染症で、発熱とかゆみを伴う発疹(水ぶくれ)が全身に広がるのが特徴です。感染者の咳やくしゃみによる飛沫や空気感染、さらに水疱内容物との接触によって人から人へ感染します。予防にはワクチン接種が有効で、かつ咳エチケットや手洗いの徹底など、日常的な感染対策も重要です。
- 梅毒も同様に、県全体で昨年同時期の報告数を上回っています。梅毒トレポネーマによる感染症で、感染経路の多くは性的接触によるものです。生殖器にしこりやただれ等の症状が出るほか、妊婦の場合は流産等の恐れもあるので感染が疑われる場合には早期に医師の診断、治療を受けてください。

【集団発生状況】※栗原支所管内

・新たな集団発生の報告はありません。

- 保健所では、手洗いチェッカーの貸出を行っています。
- 施設の感染対策として活用ください。

手洗いチェッカー



【感染症コラム～手足口病～】

- 4歳頃までの幼児を中心に夏季に流行するウイルス感染症です。成人を含めた小学生以上の大半は、既にウイルスの感染(不顕性感染も含む)を受けている場合が多いため、成人での発症はあまり多くありません。
- 3～5日の潜伏期を経て、口腔粘膜や手掌・足底・足背等に水疱性の発疹(2～3mm)等が出現します。発熱は約1/3に見られますが38℃以下のことがほとんどです。特別な治療方法はなく、基本的に軽い症状であるため、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。
- 感染経路は、飛沫・接触・糞口感染です。
- ウイルスは症状回復後も便中に約2～4週間排泄され、長期間にわたって感染源になる可能性があります。
- 発疹に触った後・排便後・乳幼児のおむつ交換後の手洗い、換気、環境消毒等を徹底しましょう。(アルコール消毒が効きにくいウイルスなため、塩素系の消毒薬を使用してください。)

【お知らせ】

- 国内で麻しん(はしか)が流行しています。
- 麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、感染力が非常に強く、同じ空間にいただけで感染することもあります。
- 予防にはワクチン接種が有効です。2回接種していない方は、接種を検討してください。



大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
☎0228-22-2117 📠0228-22-7594